月潟村、味方村、中之口村三村海外研修事業

チャオ・イタリア

原　正行

「ほら起きれや！」と言う母の声でビックリして起きてから私のイタリア研修旅行が始まりました。そしてあわただしく着換えて忘れ物はないか確認しながら、荷物をもち犬のシローと母に挨拶をしてからでかけました。そしてAM6：00に添乗員の小嶋さんほか旅行にご一緒する皆さんとおあいして「ああこれから旅行なんだな」とつくづく思いながら新幹線に乗りました。そして新幹線の中、成田エクスプレスの中で少しずつみなさんとうちとけてきて楽しくなってきた所で成田空港に着きました。ところが手続きが終わって「はて次はいよいよ飛行機だぞ」なんて思っていると添乗員の小嶋さんが「じつは飛行機が6時間程遅れているので待ってもらいたい」と言うので愕然としました。普通であればそんなに遅れるわけがないのになんでそんなに遅れたのだろうかと思い、これからがすごく不安になりもう帰ろうかと思ったぐらいですが、イタリアの飛行機会社は平気で遅れるそうで少し安心しました。そして待ちに待った飛行機に乗り一路イタリアはローマへと飛びたったわけです。機内は13時間も乗るのでまして初めてなので眠れずいらいらしていたのですが、ローマについて空港を出たとたんに一気に竜宮城にきたみたいに楽しくなりはしゃぎたくてしようがありませんでした。

そして次の日いよいよ視察が始まるわけです。最初はローマ市内事情視察でした。まさにローマは思っていた以上の町で、街なみ家は昔そのままの状態ですばらしかったです。その中でも、コロッセオ、ヴァティカン市国のサンピエロ寺院はほんとうに昔のままでまた、石作りの建物ですから日本とはまったく違い神秘的な感じがしました。思わず「神に感謝しますアーメン」なんて心の中で祈っていました。

そして昼からはローマ大学の公式視察で、フォロレンツアーノ校長先生のお話を聞き、またインターネットの勉強やイタリア語の勉強をしました。「ボンジョールノ」

そして次の日はベニスです。ベニスは「水の都ベニス」と言うだけあって水の中に町があり、移動は水上タクシーがおもだそうです。私たちも水上タクシーに乗って観光しましたが、すばらしい景色とヴエネツィアの歴史を見て聞いてほんとうに心を打たれました。中でも、守護聖人マルコやガラス工芸などは聞いてびっくり見てびっくりで、ついついしらぬまにヴエネツィアグラスを買って手に持っていました。

さて次の視察ですが次はリサイクル処理施設を見学でした。アマブと言うベネチア環境保全機構を訪問し、色々とお話しを聞きました。個人的には関心があり色々とメモったり質問したり、写真を撮ったり勉強しました。これを今後活かせばと思います。

そして次の日はミラノです。ミラノは少し近代的な感じのする町でした。市内事情視察はロミオとジュリエットのいた家を見学。そこで少しお願いをしてきました。お願いはないしょです。そして公式視察は老人福祉の件で市役所に行き、福祉課のマンザリさんより色々とお話しを聞きました。やはり皆さんは福祉に関心があるらしく長時間にわたり質問をしていられました。

▲車窓から見たベニスの市街地

そして次の日一路日本へ帰国となるわけです。まあこのような日程で行動してきたわけですが、最初視察はなじらねと言われた時は、一度も海外旅行は行ってなかったし、鉄のかたまりいわゆる飛行機が飛ぶなんて信じられなかったし、おっかねかったわけですからあまり行きたくはなかったのですが、今思えばほんとうに行ってきてよかったと思っています。飛行機も安全な乗物ですし、参加者もすばらしい人達でした。また他国に行って、日本とは違う所をいっぱい見れたり聞いたりも出来ました。本当に勉強になりました。まあこれからの私の一生の思い出になりますし、これから生きて行く間のかてになります。色んな意味で一まわり大きくなって帰国したんじゃないかなと思っています。

本当に関係者の皆さんありがとうございました。感謝しています。今後もまた、機会がありましたらよろしくお願いします。チャオ！

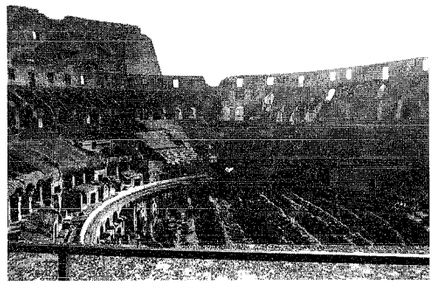
夢が叶った海外旅行

和平厚子

夢にまで見た初めての海外旅行。正直言って楽しみと不安でいっぱいだったが、参加者の皆さんと挨拶を交わしている内に、本当の旅行気分になった。出発は6時間遅れたが、約15時間の飛行中、思っていたより体調も良く、快適の内に目的地のローマ空港に到着した。

当日の午前中はローマ市内の事情視察をした。映画「ローマの休日」で、すっかり有名になったトレビの泉。丁度、掃除中であったため、素晴らしい噴水もみれず、コインを投げ願い事をすることもできず、少し残念だった。世界最小の独立国であるヴァチカン市国のサン・ピエトロ広場には、3本並んでいる柱が中央の大理石の上に立って眺めると、1本に見える不思議な設計による建物がある。現物を見たら、とても言葉では言い表せないほど感激した。全体的に建物が古いためか、所々で修復工事を見かけたが、一度に全部は施工せず、部分的である。それは、国として歴史を大事に守る意味から原形を崩さないためであり、新しく建物を建てる場合は既存の建物は壊さず、上に新たに建築するそうだ。歴史の古い国であり、その経過を大切にする国の心が強く伝わってきた。

午後からは、ローマ大学を視察。グトテンチャーノ校長先生から説明を受けた。社会人の為の講座であるため、資格を取る事が目的ではなく自分自身を高める学習である。登録者は現在13，000人で、全体の約75％が女性。年齢は45、46歳の方が多い。7つのコースがあり①芸術②スポーツ……⑦一般教養である。出版社や国内の大学と提携している。また、海外にも提携関係を持ち、教育情報等をインプットしている。実際の学習場面が見学できず残念でしたが、生活環境は違っても気力の問題は一緒である事を痛感した。以前、私も同様の学習をして途中で挫折をしたことがある。今回の話を聞き、再度、挑戦する決意である。



▲世界最古のスタジアム「コロッセオ」

研修を終えて、一旦はバスでホテルに戻ったが、夕食迄には1、2時間あり、みんなで歩いてローマのメインストリートへ買物に出かけた。憧れのローマで、あれもこれも見たいものばかり。時間に制約があるため、途中で2、3人ずつ分かれて行動をした。海外での買物が初めての私は、皆さんに助けられながら買う事ができた。次に友達の買い物に付き合うため、地図を見ながらようやくお店を探しあてて、買い物を終えたのだが、急いでホテルに戻るつもりが、気付いたら逆方向へ走ってしまっていた。そこで、恐かったけれどタクシーに乗りホテルへと向かった。無事到着し、レストランの席に着くとギターとフルートを奏でながら男性2人がやって来た。陽気なカンツォーネで始まり、〝コンドルは飛んでいく〟そして、日本語で〝上を向いて歩こう〟等を歌ってくれた。懐かしく、私も口ずさんでいた。料理も美味しく、和やかでとても楽しい夕食であった。

後日、ミラノ市役所を訪れた。社会福祉について、ルイズ・アンザリ課長さんと、日本人女性の通訳さんが話してくれた。ミラノ市の人口は130万人を越え、その内の38万人が60歳を越えている。現在の問題としては、老人ホーム数が足りないこと。現在のベッド数が380床であるのに対し、入居希望者は740名である。その内の多くは、精神的なケアを必要とする1人暮らしの老人である。自分の住み慣れた家庭環境で暮らせることが一番であるが、老人にとって孤独感が病気のひきがねともなり得る。そこで、ベッド数を増やすだけではなく、在宅でも安心して生活できるような サービスを提供するため、介護者の数を増やす方向に進めている。また、91年からは、1つのシステムとして、1人暮らしの老人がベルを鳴らすと、直ぐに飛んで行けるような体制を取っている。相談に来る人の状態や年齢等により、適切な対応が出来るようなシステムになっており、各地域の老人会や教会からも協力を得ている。日本でも高齢化社会を迎え、ミラノと同じように核家族化も進んでいる。私たちが老人になる頃には、どのような社会環境になっているかは想像もできない。1人では生きていけない人間の弱さのためにも、日常の健康管理に留意して、心に優しさと豊かさを持つように心がけたいと思っている。

旅行中、それぞれが思いやりを持ち、お互い助け合いながら行動をした。あっと言う間の一週間であったが、皆さんと共に過ごさせて頂き、研修でも多くのことを学び、はかり知れないものを得ることができた旅行であった。

海外研修旅行ができましたことを心より皆様方に感謝申し上げます。